

第39回北海道生涯学習研究集会  
【基調講演】(2022年11月3日)

# 少子高齢社会を支える社会参加

## 生涯学習の観点から

---

## 高齢者ボランティアのプロダクティブエイジング をどう促していくのか？

齊藤ゆか（神奈川大学人間科学部）

# 自己紹介

## 専門

生涯教育学、生活経営学、  
福祉教育・ボランティア学習

## 最近の著書

『ボランティア評価学』(ミネルヴァ書房、2022年)

『ボランティア活動とプロダクティブ・エイジング』

(ミネルヴァ書房、2006)

『創年のススメ』(ぎょうせい、2008)

## 社会的活動・委員

横浜市・市民協働推進委員会委員

小田原市・社会教育委員、教育振興基本計画策定委員

東京都ボランティア・市民活動センター・配分委員会 委員



ボランティア評価学

青藤ゆか著  
ミネルヴァ書房



# 生涯教育学にかかわる研究（2005年～）

## プロダクティブ・エイジング研究

雇用労働者の定年退職後のライフステージにある男女の活動力（特にボランティア活動部分）を「**プロダクティブ・エイジング**」の視点からの研究である。

研究期間：2001年～2005年

→「プロダクティブ・エイジング」への方向を思ったコミュニティ・プログラムの重要性が再確認された。

## 世代間交流研究

高齢者を中心としたグループの立ち上げや、**子どもを中心とした学生と高齢者との協働による世代間交流事業**などの実践的研究である。

研究期間：2005年～現在

主たるプロジェクト：アートパークプロジェクト、子どものお仕事体験プロジェクト、稲作体験プロジェクト、クリスマスKIDS運動会、かながわユースフォーラム（商店街、町内会、学童等の連携）

## 市民大学・高齢者ボランティアの学習プログラム研究

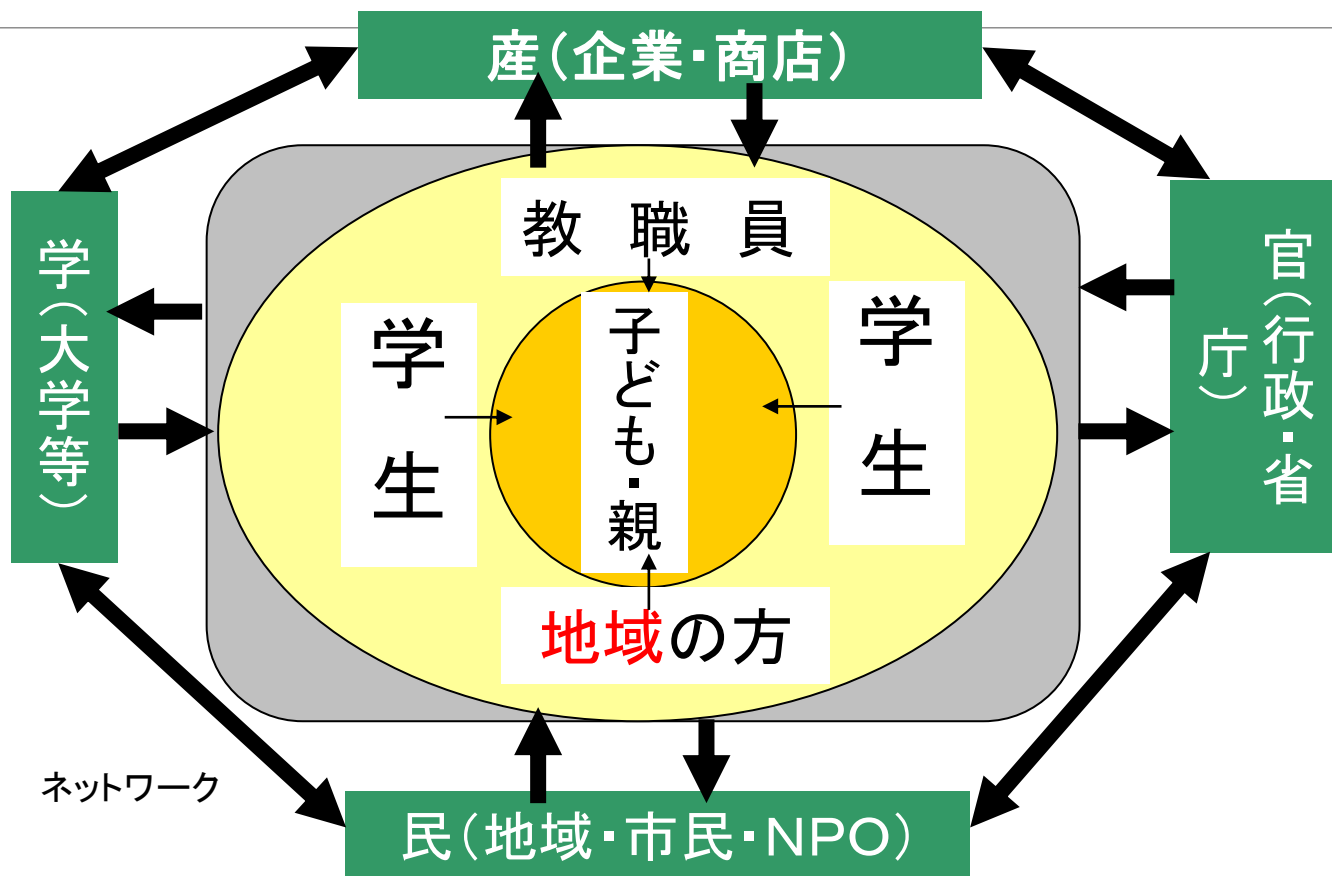
各自治体における市民大学及び高齢者ボランティアの育成プログラムの開発的研究である。

研究期間：2006年～現在

協力した自治体：相模原市（地域づくり大学）、小田原市（おだわら市民学校）、千葉県佐倉市（佐倉市民カレッジ）、市原市（いちはら市民大学）、松戸市（生涯学習大学）など多数。

個人と時間、個人と他者、個人の経験知や考え方の発展、個人とコミュニティのなど、相互の関係性を**エンパワメント**していく**支援の仕組み**が必要。

# 地学のネットワーク・世代間交流



# 「世代間交流」の導入と展開

教育活動に、世代間交流を意図的に導入した「**社会参画型教育プログラム**」を展開。

2006年～現在までのプロジェクト(PJ)

「稲作体験PJ」「アートパークPJ」「子どもの仕事体験PJ」「クリスマスKIDS運動会」「町内会のヒューマンライブラリー」等がある。

これら**活動プロセス**において、**参画カレベル**を段階的に高める**事業創出**を試みた。



○ボランティア

○プロダクティヴ・エイジング

○世代間交流

---

# 大切にしている視点

---

高齢者の生き様は、一人ひとりが異なり複雑である。しかし、誰もが最期まで生を実感した生き方を望むのではないか？

エリクソン(1986:32、44)は、人生最後の段階(老齢期)における「生き生きしたかかわりあい(Vital involvement)」に新しい潜在力があることを指摘した。

バトラー(1984)は有償・無償を問わない生産的な活動力に着目した「プロダクティブ・エイジング」を提唱

## 本日の講演

---

# 自己紹介

---

## ○プロダクティブ・エイジング:

考え方、研究の到達点や課題

---

## ○ボランティアの実態:

統計や調査

---

## ○高齢者ボランティア:

前期高齢者／後期高齢者

---

## ○これから生涯学習研究と実践



# プロダクティヴ・ エイジング

# 高齢者ボランティア

「高齢者のための活動か」  
「高齢者による活動か」

---

① 高齢者を客体とする研究

② 高齢者を主体とした研究

③ 当事者性の育成およびいのちの持続性の研究

④ 世代間交流に関する研究

⑤ 地域の仕組みや場に着眼した研究

# ボランティア

ボランティア統計

# ボランティア層

顕在的  
ボラン  
ティア

潜在的  
ボランティア

無関心層

# ボランティア

ボランティアに関する独自調査  
(齊藤2019)

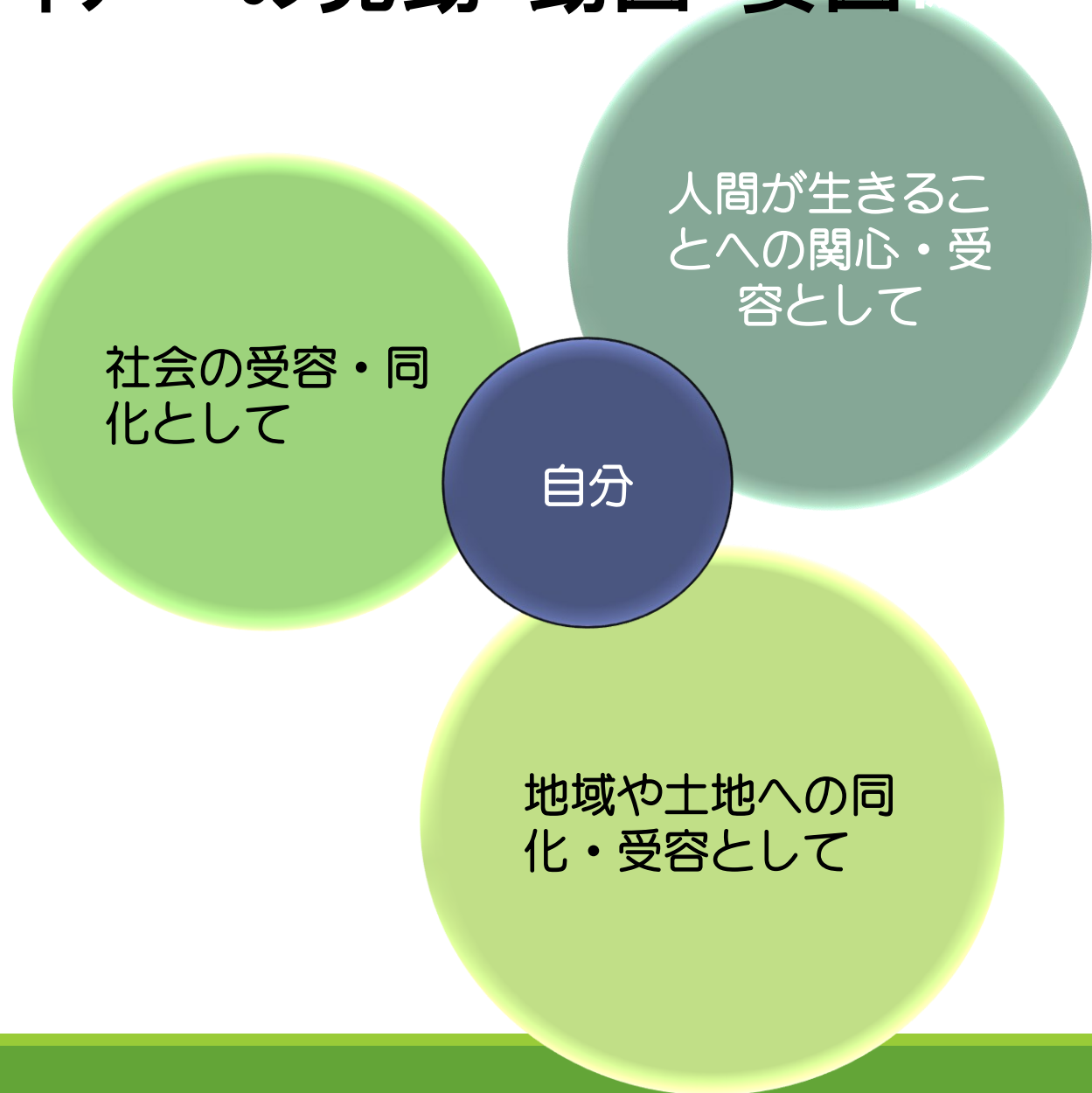
# ボランティアとは？

---

Volunteer 「意思」「するつもりだ」→  
「何かをする人」, 「自発的に行動する人」

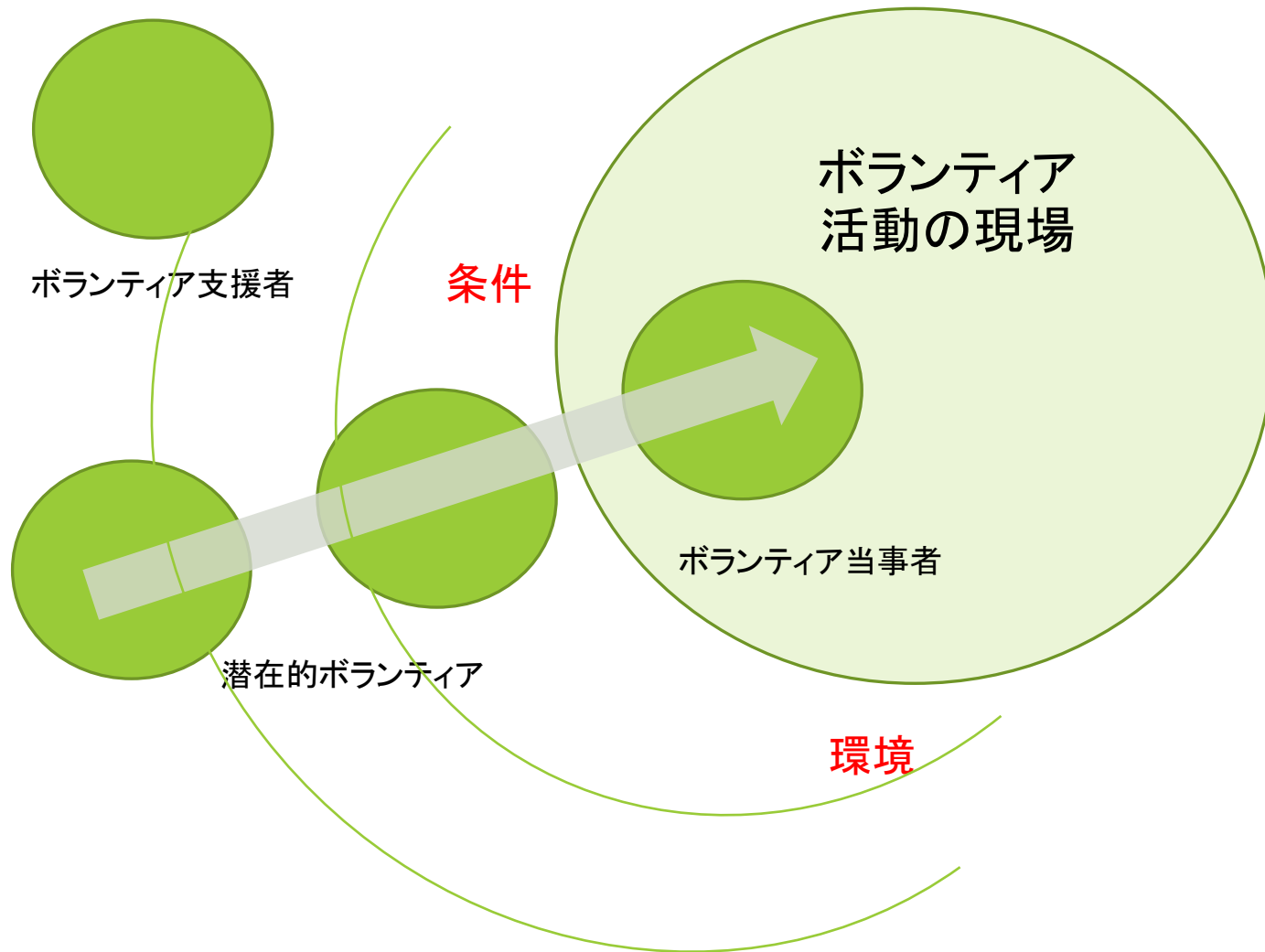
営利目的ではなく、自発的動機から、  
時間、能力、エネルギーなどの労働を  
第3者に提供するヒトを指す。

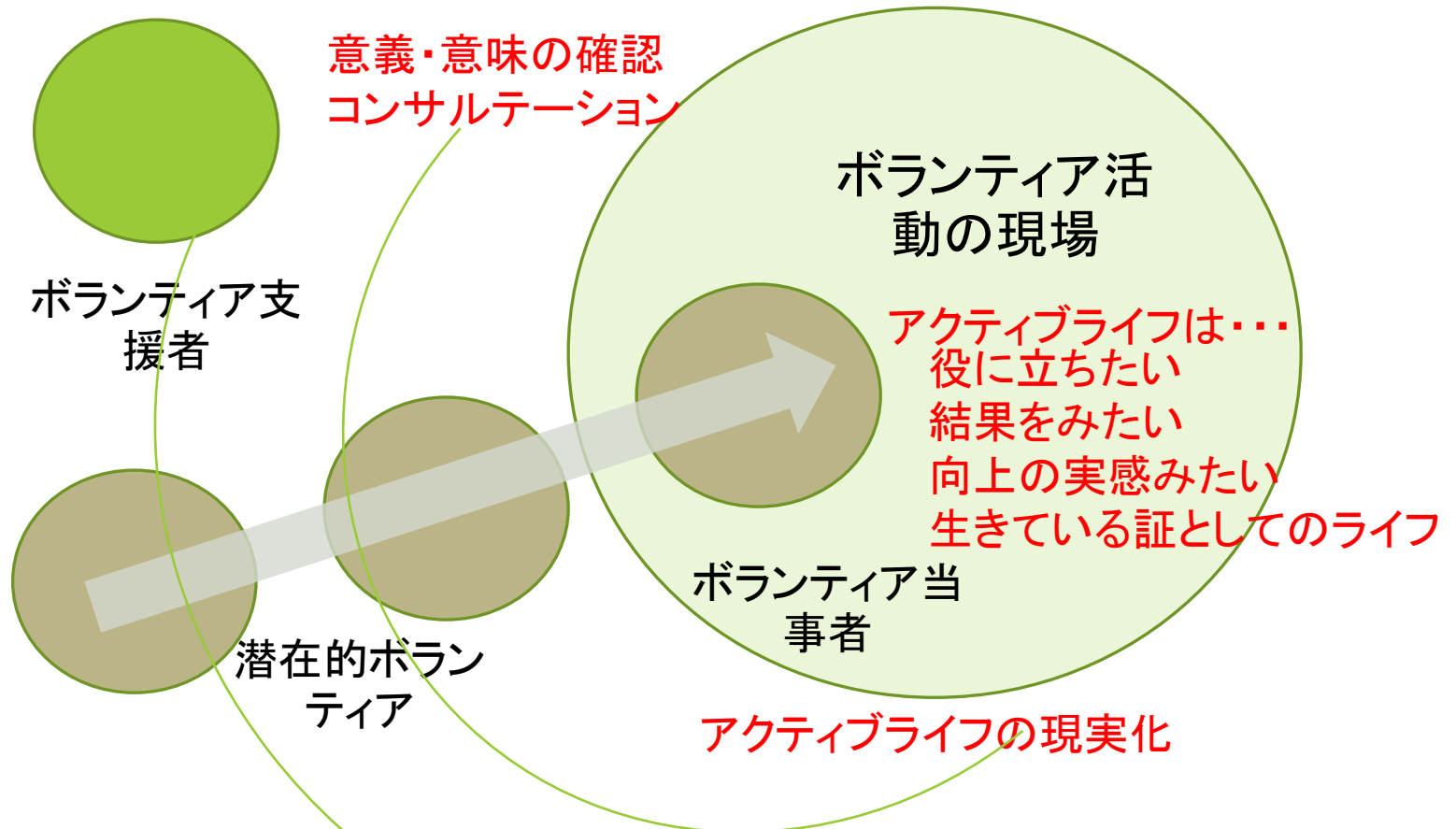
# ボランティアへの発動・動因・要因



# 高齢者ボランティア 前期高齢

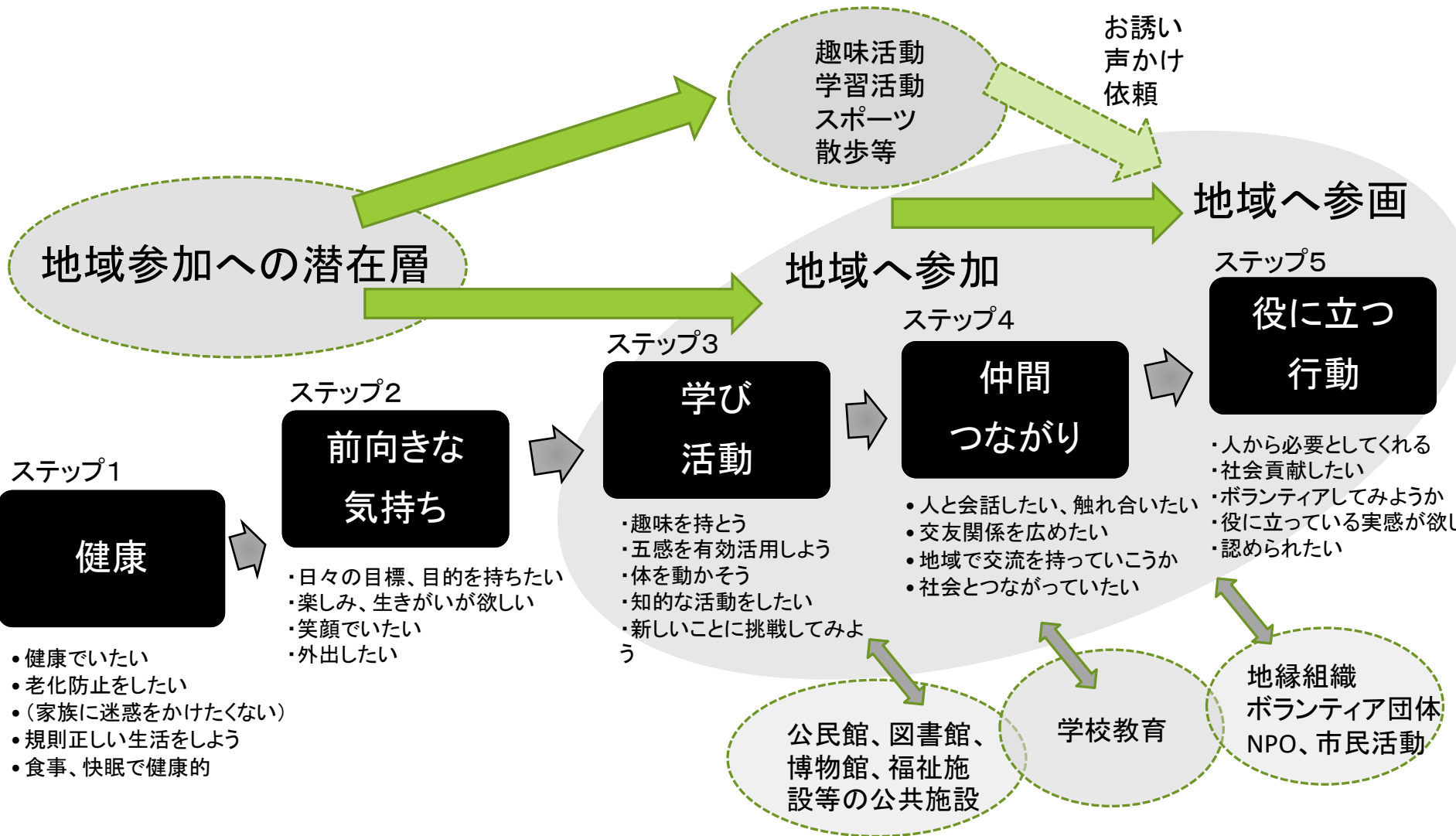






関わりたい、つながりたい、広げたい → 外向き  
知りたい、深めたい、極めたい → 内向き

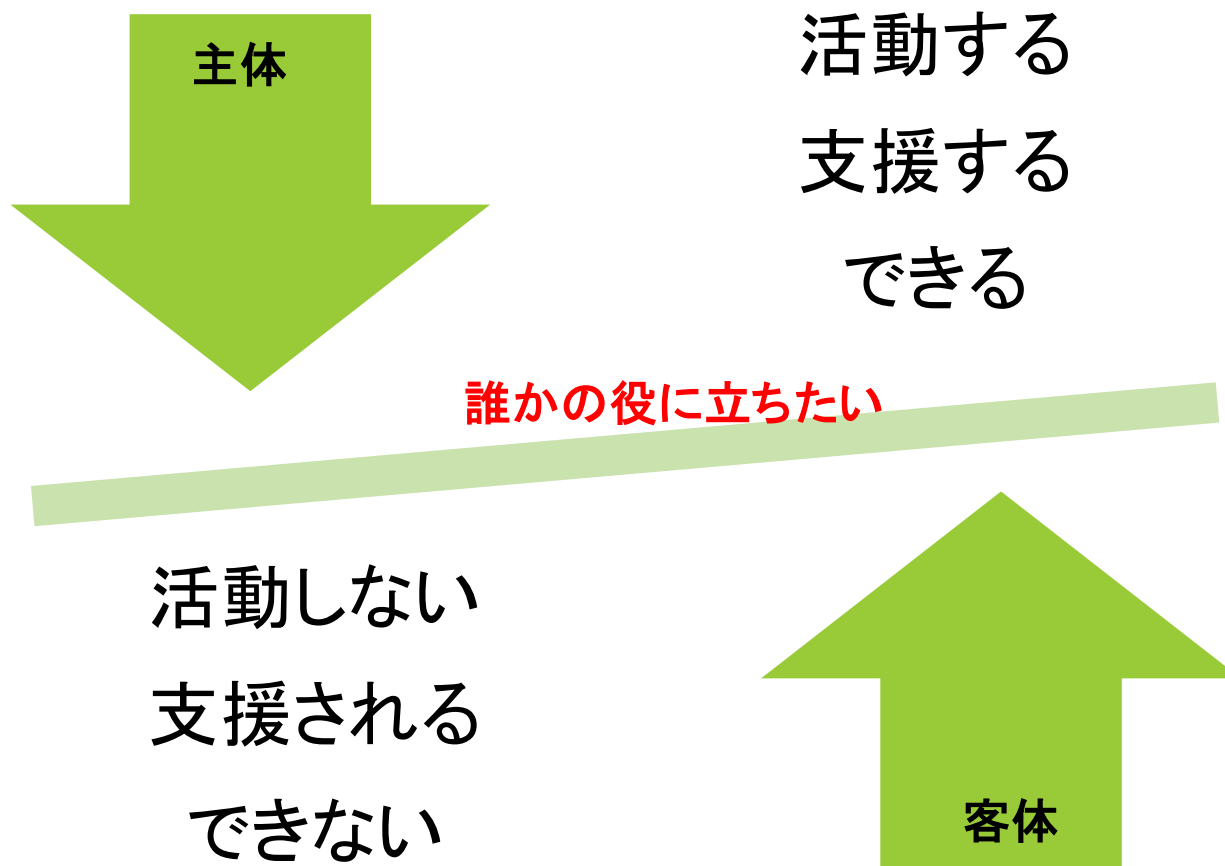
アクティブライフの確立化



高齢者ボランティア

後期高齢

# 高齢社会対策の施策分野 「学習・社会参加」の活動促進の強化



# 高齢社会対策の施策分野 「学習・社会参加」の活動促進の強化

---

現実的には「活動する人／活動しない人」「支援する人／支援される人」など二者区分される。

日本人の多くは、「役に立ちたい」(＝社会貢献意識が高い)がそれが行動には表れない「潜在的ボランティア層」

多くは「主体」と「客体」との中間を揺らぎ、往還している。

少子高齢社会を  
支える社会参加

# まとめと課題

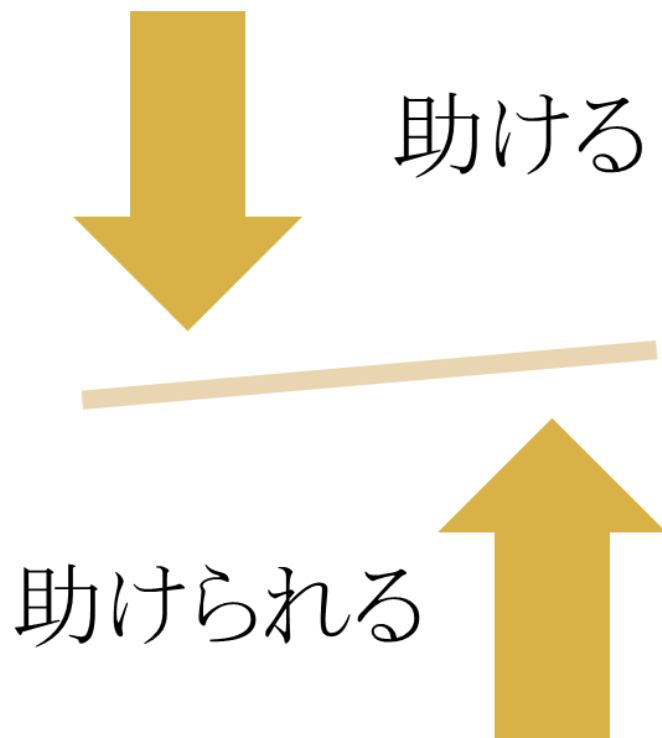
---

「潜在的ボランティア」のニーズは、「人間」の個人の願いや思いも含む。自分の満足、自分の勉強、自分の生きている存在感を意識したい等の個人のニーズは、既存統計では分析できない。

「人に喜ばれたい」「自分の視野を広げたい」「自分の生きている存在感を意識したい」等の個人の充実を願うニーズが「潜在的ボランティア」に含まれている。個のニーズを含めれば、**ボランティアの対象幅は広がる可能性**。

「潜在的ボランティア」を生涯学習の観点から捉え直し、個々人が「自発的・生産的な生涯の構築」ができる社会の実現に向けた実践研究へ。





## 今後の研究課題

- 多様性や弱さを認め合える共生社会へ。
- 「助ける／助けられる」混在域を変換させられる地域人(キーパーソン)の暗黙知の明瞭化。
- 高齢者の存在価値や連続線上をむしろ社会貢献としての「プロダクティブ・エイジング」概念に組み込む。

# 一部のみ公開

---